

学校経営方針

1 2021年度重点事項の総括と今後の方向性

(1) 学習改善

学校種や教科の枠を超えて、単元計画表やルーブリックを活用した評価の在り方を追究してきた。取組を通して、単元や授業の中で目指す子供の姿が、子供や教師にとって明らかとなり、見通しをもって粘り強く課題解決を図る学びへと深化する成果が得られた。

仮説・検証等のP D C Aを短いスパンで回して、残された課題を解決しながら、栗島浦小中学学習改善モデルを完成させていく。

(2) 「困難に対して、他者と協力しながら問題解決を図る意欲・態度」「人間関係づくりの能力」等の社会性の育成

「合意形成」「意思決定」を意識した取組が浸透するとともに、活動過程の子供の頑張りを評価する振り返りが継続的に行われた。また「いじめの未然防止実践研究パイロット事業」から、自尊感情や自己肯定感を含む社会性の育成が図られて有効に機能した。

よりよい集団づくりにおいて、ポイントなる混乱期を乗り越えるために、相手の人格を傷つけることなく、本音を出し合い、お互いに信頼し合う人間関係づくりを推進していく。

(3) 基礎体力の向上

担当教職員を中心としたチームとしての取組が展開された。また、子供たちが楽しく運動に取り組めるよう工夫したり、改善を加えたりしたことで、年間を通して意欲的に運動する姿が見られた。

体育やのびのびタイムを中心に、継続的かつ意欲的に運動できる時間を確保したり、内容を工夫したりすることで、子供の一層の体力向上を図る。

(4) 未来を切り拓く力や郷土愛を育成

地域資源の活用にとどまらず、県水産海洋研究所等を訪問したことによって、専門的な知識の習得が図られた。また、県内外の学校とオンラインによる遠隔授業交流を通して学習発表や意見交流等が行えた。

専門家並びに異世代や他地域の方々との触れ合いや、海を通じた学びや海洋教育を視点とする教科横断的な学びの推進から、深い学びの実現を図る。

(5) 創立130周年記念事業

「子供は学校の主役であり、学校は地域のもの」である。次年度迎える創立130周年を、地域と共にお祝いする。子供たちが地域へ、栗島浦小中で身に付けた資質・能力を学校行事等で表現したり、感謝の気持ちを伝えたりする取組を展開する。

2 ミッション（社会的な使命・存在意義）

(1) 学校教育目標を達成する

- ア 知・徳・体のバランスのとれた育成
- イ 言語能力やコミュニケーション能力とともに情報活用能力の育成
- ウ 義務教育終了段階での自立を目指した指導

(2) 地域と学校の双方向の連携・協働による子供の学びと地域づくりを推進する

- ア SDGsを視点とした、海と人との共生や地域の創生の学び
- イ 地域の伝統・文化の継承による郷土愛の育成
- ウ 地域コミュニティの中核としての役割を担う

3 ビジョン

(1) 目指す学校像 「子供・保護者・教師の夢や希望にあふれる学校」

- ア 学ぶ楽しさや分かる喜び、心や体の成長が実感できる学校
- イ 保護者・地域から信頼され、地域とともに歩む学校
- ウ 教師が情熱と使命感をもち、教育活動を進める学校
- エ 教育上の環境が整い、安全・安心に生活できる学校

(2) 目指す子供像 「何事にも主体的に取り組む子供」

- ア 育成すべき資質・能力を身に付けた子供
- イ 絆づくりを進め、豊かな人間性・社会性を身に付けた子供
- ウ 健康で安全に生活し、体力の向上に取り組む子供
- エ 海に囲まれた栗島を深く理解し、ふるさと栗島を誇りに思う子供

(3) 目指す教職員像 「率先垂範・凡事徹底・プラス α を目指す教職員」

- ア 主体的・対話的で深い学びの実現や個に応じた指導の充実を図る教職員
- イ 細やかに見とり、子供の心に寄り添い、共に活動する教職員
- ウ 保護者や地域と信頼関係で繋がり、地域の特色を理解して活かす教職員
- エ 子供の心身の健康づくりや居場所づくり、環境整備に努める教職員

4 学校教育目標

- ・自ら進んで学習する子ども (知)
- ・思いやりを持ち助け合う子ども (徳)
- ・めあてを持って体を鍛える子ども (体)

5 重点実践事項

知・徳・体・地域連携の重点事項をそれぞれ一つに絞り、成果を上げて全体に波及させる、「一点突破、全面展開」の考えで進めます。

(1) 子供の学習改善を図る

単元計画表とループリックの活用による栗島浦小中評価モデルの確立

(2) 「困難に対して、他者と協力しながら問題解決を図る意欲・態度」「人間関係づくりの能力」の育成

本音を出し合い、信頼関係を深めるクラスミーティングや哲学対話等の取組

- (3) 基礎体力の向上
年間を通じた持久走等の取組
- (4) 未来を切り拓く力や郷土愛を育成
地域資源の活用や外部講師招聘・施設訪問による学びの推進

6 教師の基本的な姿勢 「教育は信頼関係の上に成り立つ」

(1) 個を伸ばす教育を実践する

- ア 一人一人を大切にし、子供の心の揺れや不安に即時対応する。
→登下校時の見取り
- イ 「できるようにになりたい」「分かるようにになりたい」という子供の願いを大切にすること。
→タブレット端末等、ICT機器を活用した新たな学び、記憶の呼び起こすツールに位置付けたテスト、学習懇談等
- ウ 生徒指導の3機能を生かした教育活動を行う。

(2) 「率先垂範」教育公務員としての誇りと自覚をもつ

- ア 時と場と目的に応じた行動がとれ、子供の行動模範となる。
→授業の開始・終了、下校等の時間を守る。
- イ 適切な言葉遣い、身だしなみ、人としてのマナー等に配慮すること。
→来校者の出迎えと見送り。電話の応対等。
- ウ 法令を遵守し、非違行為は決して起こさない。

(3) 全職員が協働の意識をもち、チームとなって組織的な対応をする

- ア 「報・連・相」と「確認」を徹底し、情報の共有化を図ること。
→抱え込まない。悪い報告ほど早く行う。互いに声掛け合って確認すること。
- イ スピードが誠意である。チームによる迅速・適切な初期対応を心掛ける。
→生徒指導に関わることは週をまたがない。保護者への丁寧な説明を行う。
- ウ 教師一人一人が自らの専門性を発揮し、連携・分担して教育活動を行う。

(4) 環境の整備・美化・安全管理を徹底する

- ア 日々の安全点検や清掃活動を通して、安心・安全な環境を作る。
→転倒、落下の危険性予見。心を込めた清掃活動
- イ 環境の変化に気を配り、維持や美化に努める。
- ウ 危機管理マニュアルの見直し・改善を図り、周知徹底を図ること。
→感染症予防対策の徹底

(5) 「集中と選択」を実践し、自らの働き方を見直す

- ア 「子供のための活動」となっているかを考え、整理・統合・削減すること。
- イ 「現状維持は衰退」新しいアイデアを考えて、積極的に取り組む。
→いじめや命に関わることでなければ、担当判断での挑戦もあり。
- ウ 時間外勤務一月45時間以内、一年360時間以内を目指す。また、年休一年15日以上の取得を図ること。